

平成 25 年度 第 2 回安曇野市地域公共交通会議兼地域公共交通協議会 会議概要

1	会議名	平成 25 年度 第 1 回安曇野市地域公共交通会議兼地域公共交通協議会
2	日 時	平成 26 年 3 月 27 日 (水) 午後 1 時 30 から 2 時 40 分
3	場 所	県安曇野庁舎 401 会議室
4	出席者	宮澤宗弘会長 (安曇野市長)、奥山修司委員、中牧俊明委員 (坂内陽子氏代理出席)、塩沢宏昭委員、森田敏彦委員、山崎芳彦委員 (荻原岳史氏随行)、樋口眞委員、小野照武委員、近野京子委員、美濃輪喜和子委員、矢花正一委員、齊藤正昭委員、丸山庄一委員、山田守二委員、望月熙史委員、山田文明委員、宮崎崇徳委員、曲淵憲介委員、小林忠由委員、小岩井清志委員、耳塚喜門委員、岡山徳夫委員、中村博委員、小山茂委員、西郷靖純委員、宮田聡委員、藤松兼次委員、飯沼利雄委員、大内善司委員 (山崎哲治氏代理出席)、飯森正敏委員、北條英明委員 事務局：等々力企画政策課長、平林同課企画担当係長、矢淵同課企画担当 担当課：健康福祉部 (藤原高齢者介護課長補佐)、観光協会 (飯田専務理事)
5	公開・非公開の別	公開
6	記 者	2 人
7	傍聴者	0 人
8	会議録作成年月日	平成 26 年 4 月 26 日
協 議 事 項 等		
1	開 会 (企画政策課 等々力)	※任期中途での交代による矢花委員、山崎委員からの一言あり
2	あいさつ (宮澤会長)	
3	議 事	(1) 平成 26 年度安曇野市地域公共交通会議兼協議会事業計画 (案) について (2) 平成 26 年度安曇野市地域公共交通会議兼協議会予算 (案) について (3) 平成 26 年度各路線運行計画 (案) について ア. 穂高周遊バスについて ・路線の休止 ・運賃の変更 ・路線の変更、新設 イ. 福祉バスについて ウ. 上田線運行計画 (案) 及び運賃改定 (案) について (4) 生活交通改善事業計画 (バリアフリー化設備等整備事業) (案) について
4	報 告	(1) 上田線の運行状況について (2) 穂高周遊バスの運行状況について (3) 福祉バスの運行状況について (4) 「信州まつもと空港－安曇野シャトル便」の運行状況について (5) 「あづみん」等の運行状況・アンケート結果について
5	その他	(1) 平成 26 年度委員の選任について

(2) 平成 26 年度安曇野市地域公共交通会議兼協議会開催予定について

(3) 安曇野市組織改編に伴う協議会要綱等の変更について

6 閉 会 (企画政策課 等々力課長)

◎協議方法

安曇野市地域公共交通会議設置要綱第 6 条及び安曇野市地域公共交通協議会規約第 13 条第 2 項に基づき、会長が議事進行を行う。

◎議事録署名人

矢花正一委員、齊藤正昭委員

◎議事

※ (1) と (2) は関連があるため、一括して説明、質疑、承認を行う。

(1) 平成 26 年度安曇野市地域公共交通会議兼協議会事業計画 (案) について

【事務局説明】・・・資料 1

大きく分けて 5 つの事業計画 (案)

1. デマンド交通「あづみん」並びに定時定路線の運行を図る。
2. 乗合タクシー「あづみん」等の運行検証。本年度 4 月 1 日から消費税率アップについて事務局にて検討した結果、今回は消費税率アップに伴う運賃への転嫁を行わない、とさせていただきます。毎年アンケート調査等を行い、それぞれの路線運行課題等の検証に努めているが、使用している車両が老朽化しておりサービスの低下を招いている、という状況があるので、車両の更新についても検討を図って参りたい。
3. 「あづみん」、定時定路線の他に、いわゆる観光交通、市外移動を含む移動、福祉交通との連携について引き続き連携を図りつつ、交通の利便性の向上に努めて参りたい。
4. 公共交通サービス等に関する情報提供ということで、利用者向けの会報の発行、様々な媒体を用いた広報、情報発信に努めて参りたい。
5. 策定されている公共交通総合連携計画の推進に関する事業にも取り組んで参りたい。

(2) 平成 26 年度安曇野市地域公共交通会議兼協議会予算 (案) について・・・資料 2

【事務局説明】・・・資料 2

□収入について

1. 負担金 (安曇野市からの繰り出し) : 80,410,000 円の見込み。
2. 補助金 : 国庫補助金はゼロ。しかし、国庫補助金につきましては、直接、運行業者の市内タクシー事業者へ国より交付いただいている。額として、約 2,000 万円。
3. 諸収入 : 目出しとして 1,000 円。

収入合計 80,411,000 円、昨年度予算 78,600,000 円、比較で 1,811,000 円の増。

□支出について

1. 運営費 : 本年度予算 1,257,000 円 (前年度比 13,000 円の減)。  
(内訳) 会議費 : 790,000 円 (前年度比増減なし)  
事務費 : 467,000 円 (前年度比 13,000 円の減)。内容は需用費等。主な原因は通信運搬費等の減額によるもの。

2. 事業費：本年度予算 79,152,000 円（前年度比 1,824,000 円の増）

主な内容は運行委託費、配車受付管理をお願いしている安曇野市社会福祉協議会への委託費。

□収入支出：80,411,000 円（前年度比 1,811,000 円の増）の予算を編成させていただいた。

【宮澤会長】

只今の事務局からの説明について、ご質問、ご意見等あれば、ご氏名をおっしゃっていただき、ご発言をお願いしたい。よろしいか。

(異議なし)

ご意見がないので、平成 26 年度事業計画並びに予算案に賛成の皆様方の拍手をいただきたい。

(拍手)

それぞれ提案事項につき承認をいただいた。

(3) 平成 26 年度各路線運行計画（案）について

※関連があるため、ア、イ、ウについて、一括して説明、質疑、承認を行う。

ア. 穂高周遊バスについて

- |           |           |
|-----------|-----------|
| ・路線の休止    | ・・・資料 3-1 |
| ・運賃の変更    | ・・・資料 3-2 |
| ・路線の変更、新設 | ・・・資料 3-3 |

【事務局（安曇野市観光協会）】・・・資料 3-1、3-2、3-3

周遊バスの運行路線は、穂高駅を中心として大きく東回り路線と西回り路線の 2 ルートがある。西回りは、アルプス公園線とちひろ線と、同じルートを逆回りで運行している。

従来の西回りは、夫婦岩から大王橋の袂まで直線で運行していたが、昨年度の夏の間、路上駐車のため定時定路線での運行に支障をきた。その反省の中から、夫婦岩から一旦宮城の信号へ回り、それから有明山神社の方へ行く、というルートに変更をしたい。

新路線について、東回りルートの朝 1 番の便を明科駅まで延長し、JR と接続したい。この便は、穂高駅発であるが大王わさび農場から先はほとんど利用されないため、有効活用したい。JR 東日本と 1 年以上の協議を重ね、明科駅に「リゾートビューふるさと号」を停車させ、ドア解放していただく。その前提条件として、JR 東日本の方から明科駅から穂高地区への二次交通を確保してほしい、という強い要望があったため、ダイヤに合わせて明科線を運行する、という形に計画した。「リゾートビューふるさと号」の明科駅停車は 10 時 15 分頃の予定で、10 時 20 分頃明科駅を出発し、大王わさび農場経由で穂高駅へ戻る、という路線を新設させていただきたい。夕方は、明科駅に 17 時 35 分ごろ停車するので、その時間に間に合うように穂高駅から周遊バス最終便として明科駅直行便を運行したい、という計画。路線につきましては以上。

来年度の運賃について。現在の運賃は、平成 24 年から変わらず 1 日券 800 円、1 回券 400 円と設定した。23 年度は、1 回券も 1 日券も 500 円。それ以前の料金は、1 日券 700 円、1 回券 400 円という料金設定であった。現在の料金設定にする際に一番多かった意見は、1 日 800 円の 1 回 500 円というものだったが、利用者の利便性向上のため 1 回券 400 円と

した。ただ、2年間運行した中で、利用者の伸びの割に、運賃収入が思うように伸びていないという結果が出てきているため、1日券800円は据え置き1回券500円に運賃の訂正をお願いしたい。

#### イ. 福祉バスについて

【事務局（健康福祉部高齢者介護課）】・・・資料4

福祉バスは老人保健センター、老人福祉センターという施設の利用者増を目的に、用途を限定して運行しているバス。委託先は安曇野市タクシー運営協議会。利用対象者は60歳以上の方。

穂高地域では老人福祉センター行き、老人保健センター行きの2つのバスを運行。老人福祉センター行きは月曜から木曜に隔週で運行し、月に8日間運行。曜日毎に4路線を運行している。施設には概ね10時50分到着、帰りは14時30分施設出発という時刻表。

三郷地域では福祉センター行きバスを月曜日から木曜日、隔週で月8日間運行。曜日毎に4路線の運行。施設には概ね10時頃到着予定で、帰りは14時30分施設出発という時刻表。また、三郷からは穂高有明の老人保健センター行きというバスも運行している。こちらは隔月で先程の月、火曜日路線、水、木曜日路線の延長で運行。月に2日間ということになる。施設には概ね10時30分頃到着、帰りは14時30分施設出発という時刻表。

堀金地域では堀金老人福祉センター行きを火曜日、水曜日、金曜日の隔週で月6日間運行、曜日毎に3路線を運行している。施設には概ね9時30分到着予定、帰りは15時施設出発という時刻表。

本年度は利用者増を目指し、利用者の累計、地域の高齢者の方のご意見を伺うなどし、年度の中途であっても区切りの良い時に停留所または路線の変更等を考えて参りたい。

#### ウ. 上田線運行計画（案）及び運賃改定（案）について

【耳塚委員】・・・資料5

上田線の運行当初は1運行当たり3名ないし4名の乗車を見込んでいたが、乗車人員が増えず、現在1便当たり1.2人の乗車ということで推移をしている。

今年から、収支の改善を図るため運賃の改正をお願いしたい。改正の根拠は、今1運行当たりの平均利用者数は1.2人で2,400円の収入となる。1運行当たりの支出は、直接的な支出のみで4,300円。この差額が1,900円であり、その半額を利用者の方にご負担をお願い、後の半分は事業者の経営努力と考えている。結果として1運行当たり950円値上げし2,950円（消費税込み）にさせていただきたい。

それから時刻について、安曇野市観光協会からご提案をいただき多少変更したい。これにより新幹線との接続など、利用者の利便性を向上したい。

【宮澤会長】

それぞれ説明をいただいたが、ご質問、ご意見等あれば、お願いしたい。よろしいか。  
(異議なし)

上田線がほとんど使われない、今度ソニーが撤退の話もある。市の方でも広報しているが、利用率向上出来ない。営業努力も大変だと思うが、委員へのお願い、私ども市として

もっと積極的に取り組み、と言ったようなご意見等あればお聞かせ願いたい。

**【耳塚委員】**

この上田線が発足した時、市にチラシを作っただきそれを各戸に配布したと思う。その後、市の広報に載せていただいた程度だと思うが、市の広報だと市の全員に伝わりにくい。それから、10月、11月には上田の方から安曇野を訪れる方が多い。他県から来る会社員へのPRが不足しているのでは、と思うので、もう少しチラシを作成しPRをしていただければありがたい。今度新幹線が開通（金沢延伸）があり、北陸からのお客さんは先程説明のあった明科駅から安曇野に来ることができる。東京方面からは上田で乗り換えて安曇野へ来ることができる。ということで、私としては大変重要な路線だと思っていますので、是非、ご協力をお願いしたい。

**【宮澤会長】**

他に委員の皆さんから何かご質問は。よろしいか。

（異議なし）

平成26年度の各路線の運行計画について、賛成の皆様方の拍手をお願いしたい。

（拍手）

拍手を持って承認をいただいたということに。

**(4) 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）（案）について**

**【事務局】・・・資料6**

平成25年の5月22日に開催された第1回の会議において、バリアフリー化の設備等に関する事業計画をお認めいただいた。これは平成25年度から28年度までの3年間についての計画であった。年度が変わったことにより、新たな3年間（平成26年度から28年度）について計画を変更する必要がある。

前回も同じ内容であるが、市内事業者で低床のUD（ユニバーサルデザイン）タクシーの購入の検討があり、国庫補助を受ける希望がある。この場合当計画を立てる必要がある。現在のところ、市内タクシー事業者では把握しているところでは8台福祉車両を所有しているが、今後これをまた増やしていきたいという計画になる。市としても、民間事業者で乗り降りが簡単な福祉車両が増えることは、これからの高齢化社会の進行を考えても良いことと考える。今回の購入予定者は南安タクシー(有)、福祉タクシー車両を1台導入。

事業対象となる金額は2,599,000円、受けることができる国庫補助の割合が23%、60万という上限を計画している。

今回の申請は26年度であり申請時期は未定であるが、比較的早い時期になる可能性もあるため、今回の会議にかけさせていただいた。

**【宮澤会長】**

只今の説明について、ご質問、ご意見等あればお願いしたい。よろしいか。

（異議なし）

ご意見がないので、打ち切らせていただく。賛成の方の拍手をお願いしたい。

（拍手）

承認をいただいた。

◎報告

※関連があるので、(1) から (5) まで一括で説明。

(1) 上田線の運行状況について

・・・資料7

【耳塚委員】・・・資料7

平成25年の4月から平成26年の3月27日現在の運行状況。安曇野から上田行き利用者数が195名、上田温泉口から安曇野行き利用者数が183名、合計378名、前年度比マイナス15%。

月別では、10月、11月の秋の行楽シーズンが安曇野への利用者が多くなっており、この辺のところをもっとPRしていければ。

運行日について、安曇野から上田行きが169日、上田から安曇野行きが156日、合計で325日、前年比マイナス12%という結果。

平均乗車人数は1.2人ということで、前年度と同様。

(2) 穂高周遊バスの運行状況について

【事務局（安曇野市観光協会）】・・・資料8

平成25年度については、目標乗降数を19,800名としたが、結果は19,588名、目標達成率98.9%であった。5月ゴールデンウィークの利用者が大幅に減少したが、これは、暦の関係で24年度よりも減少した、と認識している。また、9月、10月の台風及び集中豪雨の関係で、一番のハイシーズンに利用者が大幅に減少してしまった、ということで、若干目標に達しなかった。

(4) 「信州まつもと空港－安曇野シャトル便」の運行状況について

※説明者の関係で(3)より先に説明。

【事務局（安曇野市観光協会）】・・・資料10

平成25年度は7月から10月一杯の毎週金、土、日、月の週4日の運行をした。完全予約制で運行したところ、運行便数は13便であった。運行にあたり、事前に久米、福岡地区において出向宣伝、大手エージェントへの営業活動を強めたが、まだ十分な周知がされていない、という感触。今後も営業活動を強め、利用者増に努めて参りたい。

(3) 福祉バスの運行状況について

【事務局（健康福祉部高齢者介護課）】・・・資料9

資料の数値は2月末までのもの。

利用者数について、穂高地区老人福祉センター行き：利用者数合計328人、平均利用数は3.7人。穂高の老人保健センター行き：利用者合計2,417名、平均利用者数が27.5人。堀金地区老人福祉センター行き：利用者数合計129人、平均利用者数は2.0人。三郷地域福祉センター行き：利用者数合計616人、平均利用者数は7.0人。三郷地域から穂高老人保健センター行き：利用者数合計132人、平均利用数は6.0人。平成25年度について前年度と比較すると、数値的にはそんなに変わらない。利用者についてはほぼ同じ方が利用されている。このような状況であるので、新規利用者が増えるよう検討したい。

(5)「あづみん」等の運行状況・アンケート結果について・・・資料11・12

**【事務局】・・・資料11・12**

資料11については平成23年度から25年度までのあづみん、それから定時定路線の利用者の推移を示した資料。年度中途であるが、この2月一杯までの累計数字になる。昨年度のあづみんの総延べ利用者数は、91,597名。本年度2月末の総延べ利用者数は83,563人。ほぼ昨年と同様の水準と言うように考えている。ひとつの特徴として、昨年の8月のあづみん利用者数は、1ヶ月で7,486人であるのに対し、1年前の8月は8,050人。500名程度、昨年の方が8月の利用者数は少なかった。これは、猛暑の影響で外出を控えられたのでは、と推測をしている。また、2月15日の豪雪について、その1日前の2月14日金曜日は年金の支給日であり、運行事業者には少し無理を申し上げ運行していただき、雪が降っていた14日、週明けの月曜日2月17日も300人以上の方がご利用いただいた。あの生活を支えになっている、と言える。利用者の特徴は例年と同様で、やはり高齢者、また、利用者の8割が女性ということで、交通手段を持たない方の生活維持のための路線として重要な役割を果たしている、と言える。資料11(参考)はそれぞれの月、日ごとの利用者数、男性女性別利用者などの詳細データである。

資料12-1から12-4は例年行っているあづみん、定時定路線の利用者に対するアンケート調査の結果。まずあづみん未利用者へのアンケート調査結果が資料12-1、それから、あづみんにこの1年間で1回だけご利用いただいた方へのアンケート調査結果が資料12-2、よくあづみんをお使いいただいている方に聞き取りによって行ったアンケート調査結果が資料12-3、穂高駅-明科駅、田沢駅-豊科駅の定時定路線利用者へのアンケート調査結果が資料12-4。ほぼ例年並みの満足度を維持できており、ドライバー、社会福祉協議会の皆さんの努力のお掛けというように感謝を申し上げる。

**【宮澤会長】**

各路線の運行をお願いしている市内のタクシー事業者から、何か補足等は。どうぞ。

**【耳塚委員】**

豪雪の時の運行に関連し、あのような大雪では幹線道路へ入るのが大変。玄関先まで行くと今度は、自動車がつっかえてしまい動けないような状況になり、結構救助に行ったことが多かった。車両が二輪駆動であり、明科地区には導入されているが、今後は四輪駆動の自動車を使用する必要がある事態になるのでは。

市の方も大変だっただろうが、除雪の方を是非よろしく願いたい。タクシー業務の方であるが、お宅の玄関先までは行ける状況でないため、広い道まで出ていただけないか話すと、足痛くて動けないという人が多く、除雪の方を願いたい。

それから、ありがたいことは苦情がだいぶ少なくなってきた。皆さん方の努力によってだいぶ運行が浸透してきている、と思うので、今後はもっと幅広い形で利用できるようなことを考えていていただきたい。

**【宮澤会長】**

他には。どうぞ。

**【小野委員】**

まつもと空港シャトルタクシーについて、JRや他の民間をバス使った場合との損得の勘定を教えてください。

**【事務局（安曇野市観光協会）】**

シャトル便の収支は合っていない、というのが現状。ただ、まつもと空港の利用促進、まつもと空港を利用して安曇野にお客様を誘致するという事業において、努力して行く必要があるかと。昨年4月以降、福岡地区において相当な営業活動をしているので、福岡地区のエージェントにおいてはまつもと空港から安曇野への直行便の運行がされているということについては、かなりの認識をしていただけたと考えており、今後は一般利用者に対する広報を進めていきたい。

**【小野委員】**

私の確認したかったのは、例えば料金がJRを使った場合には例えば10,000円だよ、と。これを使った場合は5,000円だよ、と。単純にその説明をいただければ非常にありがたい。

**【事務局（安曇野市観光協会）】**

まつもと空港から安曇野、ということか。

**【小野委員】**

どこでもいいが空港から安曇野、タクシーを利用した場合、要するに利用する価値があるかないか、ということ。

**【事務局（安曇野市観光協会）】**

空港便においては、乗車運賃は一人700円と設定をさせていただいている。これは、松本経由で安曇野に来ていただくよりは遥かに安い金額であり、利用価値は十分あるかと思う。

**【小野委員】**

それをお聞きしたかった。

**【宮澤会長】**

よろしいか。

先程、耳塚委員の方から出た除雪体制について、市としても最大限取り組んだが、建設業者の高齢化、或いは仕事が少ないというようなことで、合理化が行われて人がいない、あるいは重機が無い、というような課題あった。県の方とも連携をしながら除雪したが、この除雪体制の内容について、飯森都市建設部長の方から説明していただきたい。

**【飯森委員】**

2回続けての大雪ということで、生活には大変ご不便をしたとも思うが、実態を知っていただいていた方がいいのかな、とも思う。

安曇野市には市道が約1,700kmあり、その内除雪をする路線が約900km近くある。長野県は南北で約200kmであり、それを4往復以上除雪する。今回はそれ以上ということで多分1,000km以上の道路を除雪した、というのが実態。建設業者は、公共事業の縮減の中で減ってきており、必然的に除雪のオペレーターの方も、所有している機械も減ってきている。更に地域も高齢化が進んできており、除雪だけでなく防災の力も確実に落ちてきている、ということも現実だと思う。そんな中で、朝から晩まで除雪するが、いわゆる通常的生活のような要求をされても、これは現実にはちょっと不可能。玄関まで迎えに来てほしい、という話はわかるが、健康福祉部の方も一生懸命玄関まで雪を掻きに行く、そういうお宅も多くあるが、



普段の生活と同じことを要望されても難しいので、やはりその辺のところを私たちだけでなく、地域の皆さんもご理解していただく中で、皆でこう助け合っていく方向に進む、これしか、いいという道が無いのではないかと。

今回実は建設事務所とは結構、連携がうまく取れ、空いている時に機械を借りて掻く、といったことも安曇野の場合には出来た。県とも連携する、もう少し機械さえあれば掻いてくれる人がいるのか確認する、そういうところも今後取り組んで行く課題と思う。今回の大雪を教訓に、私たちもまた、例え一つでも改善していきたいと思うし、また、是非地域としてご協力いただけるところは、是非またよろしくお願ひしたい。

【宮澤会長】

他に何か。どうぞ。

【小山委員】

資料 12-3 の 7 ページ、お客さまからの要望、上から 6 項目の土日も運行してほしいという点について、私達も出席の度に何度も発言しているが、これをやられてしまうとタクシーの運転手の営業に影響を与えるで、ちょっと止めていただきたい、と思っている。

【宮澤会長】

これについて見解は。願ひする。

【事務局】

あづみんの運行に関しましては、アンケート調査の他にも我々日々の教務の中にもお電話で運行改善の要望は頂戴をしているところ。その中でも、土日の運行、夕方 1 時間程度遅くまで運行してほしい、といったご意見が良く寄せられる。今小山委員がおっしゃったように、タクシーも一つの立派な市民にとっての公共交通であるので、あづみんを土日も含めて縦横無尽に走らせる、ということになると、やはり既存タクシー事業者の圧迫に繋がるという懸念もある。そういったことも少し勘案しながら、こういった土日の運行については慎重に検討して参る必要がある、と考えている。

【宮澤会長】

他には。それでは、只今の報告事項につきましてご意見がないようなので、打ち切らせていただいてよろしいかと。

(異議なし)

【宮澤会長】

続いて、その他の項目に移らせていただく。事務局から、その他について説明を。

【事務局】

その他について、ご説明をさせていただきます。資料は特になし。

(1) 平成 26 年度委員の選任について。

4 月になれば、各種団体へ委員の推薦の願ひをさせていただきます。例年では平成 26 年度第 1 回の会議は、5 月の下旬を予定している。改めてご推薦等の依頼をしますので、よろしく願ひをいたします。

(2) 平成 26 年度安曇野市地域公共交通会議兼協議会開催予定について

例年では第 1 回目を 5 月下旬に、2 回目を 3 月下旬に、と年 2 回の開催が定例であったが、平成 27 年 10 月に消費税率のアップが予定をされている、4 月の早々に路線、

運賃の改定が見込まれる事例が多く、それらに対応するため平成26年度は1月頃、中間の開催を入れさせていただきたい、というように考えている。

(3) 安曇野市組織改編に伴う協議会要綱等の変更について

この4月1日に安曇野市の組織、機構改革がなされる。今まで企画政策課がこの会議の事務局を担当したが、今度は政策部政策経営課においてこの会議の事務所管をさせていただきたい。これに伴い、地域公共交通会議は設置要綱というものを定めて運営をしており、公共交通協議会は、規約に基づいて運営をしているところ。先程申し上げたとおり、組織改編により部署の名称が変わるので、政策部政策経営課においてこれら会議の庶務を行う、というように部署規定を整備させていただきたい。

【宮澤会長】

何かあるか。折角の機会であるので、委員の皆様方からご提言、ご意見等あれば、ご発言をお願いしたい。よろしいか。

(特になし)

【宮澤会長】

以上で予定をさせていただいた議題は終了させていただく。まつもと空港のシャトルタクシーについて、是非、空港利用者が安曇野へお越しいただけるような対策、しっかり練っていただきたい。福祉バスの運行に関係し、しゃくなげの湯の改修が本年度から始まり、27年の夏頃までにはしゃくなげの湯が完成する予定。観光の方ではもう少し利用促進をしたいということだが、福祉バスは明科と豊科は一回やってみたが利用者がゼロだったと、いうようなことで廃止をした経過がある。穂高地域の皆さん方が利用者、近いということもあって老人保健センターを活用する皆さんがいらっしゃるが、地域的及び利用者が固定化されている傾向がある。しゃくなげの湯ができた時点でどのような動向になるのか精査をしながら、この件については慎重に私どもとしては対処していかなければいけないとは考えている。以上で、本日の議事を終了させていただく。委員の皆様方にはそれぞれ慎重なご審議をいただいたことに厚く感謝を申し上げ、議長の座を退任させていただく。

【事務局】

以上を持ち会議を閉会する。お気を付けてお帰りいただきたい。